

令和6年3月5日

奈良県知事 山下 真 様

橿原市長 亀田 忠彦

令和6年2月29日付け、奈良県知事の回答に対する反論

平素は、橿原市行政に対し、ご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和6年2月29日付けで「運転免許センター等移転先決定に関する要望書」についての回答を山下知事より頂戴しました。回答には、冒頭に「市町村長の皆様と事実関係に基づく県民本位の建設的な議論を重ね、県と市町村が両輪となってより良い奈良県にしていくことを基本姿勢にしており」との記載がございます。もちろん、私としても異論はございません。しかしながら、議論を重ねるためには、決定しようとする事柄、提案に対して意見を述べる機会がなければ議論をすることはできません。これに対して、決まったことについて、ただ報告を受けるだけであればそれは議論ということではないと考えております。今回の一連の経緯の中で、県からの案に対して、私どもが意見を述べる機会はほとんどなかった。少なくとも議論を重ねたという状況にはなかったと考えております。

あわせて、「今後とも県と市町村が建設的な関係を築いていくためには正しい事実認識に基づくことが重要であります」と示されておりますが、回答には、事実と異なること、または、述べられていないことがございますので、以下その点と併せて本市の考えを改めてお伝えさせていただきます。

まず、運転免許センターに関しまして、橿原市におきましても記録しています。私は、その都度、担当者から報告を受けていましたし、市内部の意思疎通は十分にできていたと認識しています。知事は、「市役所内の意思疎通の問題ではないか？」と事実と反することを何ら根拠もなく発言されましたが、これは、本市職員の信用を貶める行為であり、誠に遺憾です。令和5年4月13日の時点では、山下知事が就任前であり、あくまで県警本部担当者の想定として、「免許センターの移転を知事がどう判断されるか不明である」と聞きましたが、同時に「奈良県警としては、様々な検討を行った結果、橿原市の医大新キャンパス西側の約10haの土地が移転先の第一候補であることは変わらない」とも聞いていました。（別紙記載の奈良県の主張と橿原市の認識の通り）その後は、橿原市からの電話による問い合わせに対し、奈良県警はその時点での状況を報告されるのみとなりましたが、奈良県警としての第一候補地は変わっていないことを確認していました。我々としては令和5年11月15日に橿原市内の移転候補地が選定対象外になったことの報告は受けましたが、その後、移転先が田原本町に決定したことは全く知らされておりました。繰り返し申し上げますが、

正式に移転先が田原本町に決定したと聞いたのは警務部長が報告に来られた令和6年1月12日です。その3日後の1月15日に知事の記者会見で発表されることも同時に示され、その点について私から、協議はないのか？あまりにも発表が早すぎるのでは？と意見を申し上げております。

また、以前から県に対しても、運転免許センターが仮に橿原市以外に移転することを検討される場合は、十分に橿原市と協議をし、認識の共有を行ってからにしてほしい、間違っても「橿原市以外のどこそこに決まりました。」という事後報告のようなことがないようにお願いしており、知事もご存じのことと思います。

知事が変わったことで政策の方向性が変わることについて一定の理解をしていることは、都度申し上げておりましたが、知事就任前の時点で、県警担当者が想定して述べた「運転免許センターの移転を知事がどう判断されるか不明である」ということを以て、丁寧な協議が行われていたと言えるのかは甚だ疑問です。

報告と協議は全く違うものと、私は今までの経験で認識していますが、知事の認識では、ただ報告することが丁寧に協議をしたことになるのでしょうか。県警本部が第一候補地だと評価された橿原市内の候補地から田原本町に移転先を変更した経緯も示していただきたいと思います。なお、これまで令和3年9月10日から、令和5年4月13日までの間、運転免許センターの件については、13回の協議を重ねてまいりました。（うち、4月13日は知事就任前の単なる想定に基づく議論にすぎません）しかしながら、それ以降は、電話での連絡に留まる内容となり、協議もできないまま令和5年11月15日に、「免許センター移転候補地から橿原市が正式に外れた報告を受ける」こととなっています。

大和平野田園都市構想の中で土地の活用が検討されていましたが、その計画が白紙になり余った土地に思い付きで運転免許センターの移設を重ねたようにしかみえません。

御承知のとおり運転免許センター周辺においては、センターに関連したご商売をされている方々も多くおられます。センターの移転にはそのような方をはじめ多くの県民に大きな影響があります。そのような方々のことも考えず、発表に至ったことも含め、やはり、丁寧な協議があったとは言い難いと思います。そこを認識頂きたいと思います。知事の記者会見において、「運転免許センターはあくまで県の施設であり、住民に迷惑をかける施設であれば事前の十分な議論は必要だが、そういったものではない。今後、橿原市長と会うつもりはありません。」という姿勢そのものが強権的で、市町村と十分に協議する気のないことを示していると思います。

また、県立橿原文化会館についても回答書にある①～④について説明を受けたのは確かですが、「1月4日の知事記者会見に先立ち」は、記者会見の開始30分前に知事室に呼ばれ、アリーナの件等、本市に大きな影響のある内容について聞かされただけであり、詳細を検討する時間的な余裕は当然ありませんでした。基本的に、橿原公苑にアリーナが建設されること、そのアリーナでコンサートができることとする方向性は橿原市としても歓迎

迎すべきことだと、知事に申し上げましたが、私からはアリーナの規模（最低でも5000席）を出来るだけ今後の活用が促進される大きさにしてほしいこと、また、アリーナでコンサートができることを理由に橿原文化会館を廃止するということに対しては、アリーナでできるコンサートと文化ホールで開催するコンサートは別物であり、廃止はどうか？と知事にもお伝えしました。

知事からは、県庁の隣に県文化会館があるのでそれを活用してもらったらの発言があったと記憶しておりますが、橿原市から南側のエリアの方々は奈良市まで行くには相当時間がかかることや、大和八木駅という奈良県内でも一番結節性の良い駅の近くにある文化会館の価値を考えたら、廃止については賛成できない旨意見させて頂きました。③「同アリーナで提供できない県立橿原文化会館の機能については、現地で何らかの形で残すこと」については、展示機能を残すとは聞きましたが、現在備わっている全ての機能が担保される内容ではありませんでした。④「県立橿原文化会館閉館後の跡地利用については、県と橿原市で協議して検討すること」については文化会館も含む大和八木駅周辺の活用方法について今後協議をすることは、橿原市が進める大和八木駅北側の再整備の構想とも一致するので検討をお願いしたいと伝えました。知事室には、私の他、副市長、本市担当者も出席しており、この知事とのやりとりについて確認しております。

運転免許センターの移転もそうですが、山下知事になり、様々な事業が見直され、中には今までと方向性が変わることは一定の理解をしています。しかし、回答の①～④で示された内容は、県と市が十分に協議をする必要があると思われます。繰り返しになりますが、協議（議論）を重ねるためには、決定しようとする事柄、提案に対して意見を述べる機会がなければ協議（議論）をすることはできません。決まったことを伝えているから、議論を重ねたと主張されているとすれば、まるで橿原市の意見を聞くつもりはない、決まったことを伝えているから協議をしているのだと言われているかのようであり、到底納得できるものではありません。知事記者会見の30分前に聞いただけで、我々は検討することもできず、大まかなその方向性を確認しましたが、先ほどから示している通りの懸念事項をお伝えしています。私の態度が急変したわけでもなく、当初から橿原文化会館の廃止については賛成できない旨伝えていたものを先に提出した要望書に盛り込んだということです。

運転免許センターの移転も橿原文化会館の廃止も、このまま知事の方針で進んでいくことに強い懸念を抱いており、しっかりと県・県議会にて議論して頂きたいと考えています。橿原市にかかわることは一方的な報告ではなく、橿原市としっかりと協議をしていただくことを引き続きお願いしたいと思います。

知事は今後の信頼関係の維持に不安を感じるとおっしゃられますが、私はいささかの不安もありません。

このようにそれぞれの意見も時間をかけて繰り返し、それこそ話し合い、協議することが

大切ではないでしょうか。

喧嘩するほど仲が良いという言葉もあるように、今後も檀原市発展のため、ご厚誼賜りますようお願いいたします。